

令和6年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川西小学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に児童の伸びを見ることができる調査となっております。
平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和6年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（文部科学省）より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

小学校第6学年、原則として全児童

3 調査実施日

令和6年4月18日（木）

4 調査の内容

教科に関する調査 (国語、算数)	・ 小学校調査は、国語、算数とする。 ・ 出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・ 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては、記述式の問題を一定割合で導入する。	
	【小学校 国語・算数 各 4 5 分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など
	【20分程度】	

本校の調査結果の概況

小学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの



国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	4	59.2	66.2	64.4
情報の扱い方に関する事項	1	82.1	87.5	86.9
我が国の言語文化に関する事項	1	73.2	75.3	74.6
話すこと・聞くこと	3	55.4	61.6	59.8
書くこと	2	66.1	69.2	68.4
読むこと	3	69	72.0	70.7

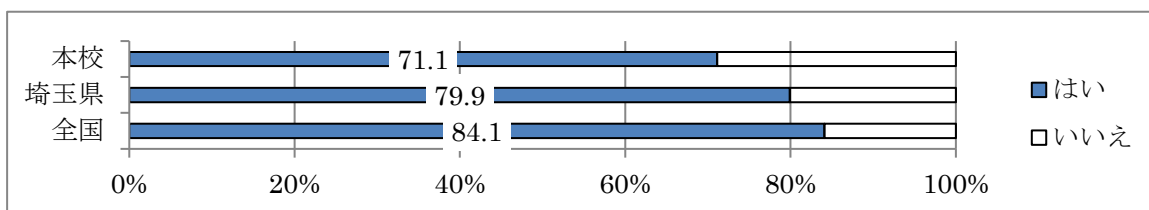
算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と計算	6	60.4	66.2	66.0
図形	4	65.6	67.1	66.3
測定	0			
変化と関係	3	44.9	51.7	51.7
データの活用	4	59.4	62.6	61.8

＜児童への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

自分には良いところがあると思いますか。

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

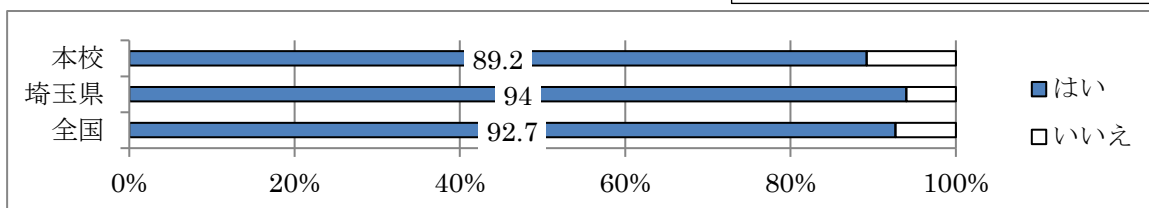
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない



人が困っているときは、進んで助けていますか。

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

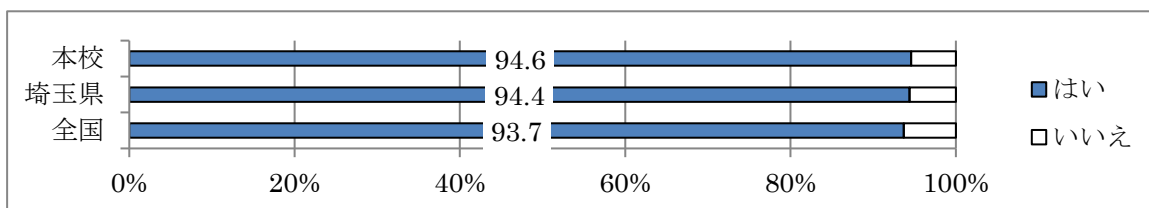
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない



朝食を毎日食べていますか。

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

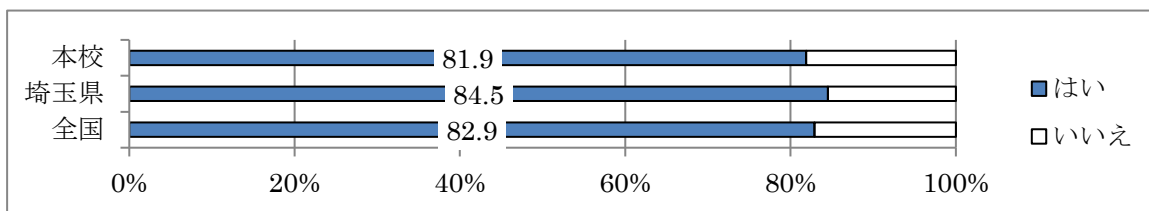
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない



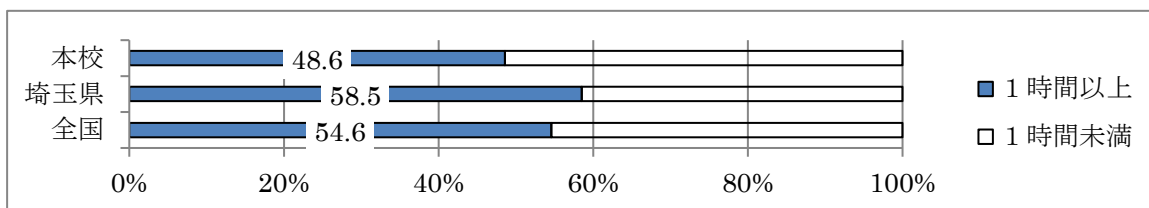
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない



学校の授業時間以外に1日（月曜日から金曜日）当たり勉強しますか。※学習塾等も含む。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【領域別】

全ての領域（5領域）で、全国と県の平均正答率を下回る結果となりました。全体として、「言葉の特徴や使い方に」関する事項「情報の扱い方に」関する事項「話すこと・聞くこと」の全国や県の平均正答率との差が比較的大きく、本校の今後の課題といえます。

【問題1二（1）】

問題の情報を基に、話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる問題です。

(2) 和田さんは、村木さんの発言⑧を受けて、後者のように話しました。和田さんの話し方のくふうとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 相手が興味をもっていることに気づき、相手の言葉を引用して話した。
- 2 相手が興味をもっていることに気づき、用意していた実物を示しながら話した。
- 3 相手が興味をもっていないことに気づき、言葉の意味を説明しながら話した。
- 4 相手が興味をもっていないことに気づき、自分の体験を加えて話した。

正答 1

全国・県と比較して、正答率が低かった問題です。話し言葉はそのままでは遡って内容を確認することができないため、複雑な構文や誤解されやすい同音異義語を避けるなど、様々な表現上の特徴が生まれます。ここでは、和田さんが、「せっかく教えてもらったのですが、だれが何をしているのかが分からなくなったので、もう一度教えてもらえませんか。」という村木さんの発言を受け、話し言葉の特徴を踏まえて、言葉の順序に気を付けて短い文に区切った話し方に変えたことを捉える必要があります。

【問題3二（2）】

問題文の中で人物像を具体的に想像することができるかどうかをみる問題です。

(2) 【話し合いの様子】で、原さんは「物語」を読んで考えたことを話しています。原さんは、物語の何に着目して話していますか。その説明として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 登場人物の気持ちや考え方
- 2 作者が伝えていること
- 3 物語の構成
- 4 表現の効果

正答 1

全国・県と比較して、正答率が高かった問題です。登場人物の人物像を具体的に想像するためには、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方などを総合して判断することが重要です。ここでは、【話し合いの様子】において、原さんが、【物語】の①や②の内容を結び付けて、「登場人物の気持ちや考え方」に着目して考えたことを話していることを捉えます。

<算 数>

【領域別】

全ての領域（5領域）で、全国と県の平均正答率を下回る結果となりました。全体として、「変化と関係」「数と計算」の全国や県の平均正答率との差が比較的大きく、本校の今後の課題といえます。

【問題2（2）】

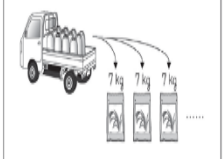
除数が1／10になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ問題です。

(2) あやのさんたちは、350 kgの米を1人に同じ重さずつ配ると、1人に配ることができるかについて考えています。

350 kgの米を1人に7 kgずつ配る場合と、1人に0.7 kgずつ配る場合を比べると、どのようなこといえますか。

下の1と2と、3と4の中から、それぞれ選んで、その番号を書きましょう。

あやの
1人に7 kgずつ配る場合を考えます。
 $350 \div 7 = 50$
50人に配ることができます。

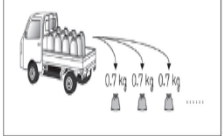


350 kgの米を1人に7 kgずつ配ると、50人に配ることができます。

1人に0.7 kgずつ配るとき、配ることができる人数は、

50人より 1 多い 2 少ない です。

はやて
1人に0.7 kgずつ配る場合を考えます。
何人に配ることができるでしょうか。



$350 \div 7 = 50$ です。

$350 \div 0.7$ の商は、50より 3 大きい 4 小さい です。

正答 【番号（1または2）】 1
【番号（3または4）】 3

全国・県と比較して、正答率が低かった問題です。除数と商の大きさの関係について理解できるようにすることが大切です。本設問では、米を配る場面において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかを問っています。ここでは、一人に配る米の重さと、配ることができる人数の関係や、除数と商の大きさの関係について理解していることが必要です。

【問題3（2）】

円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ問題です。

(2) 図1のような円柱があります。

図1の円柱の展開図はどれですか。

下の1から4までの中から、最もふさわしいものを選んで、その番号を書きましょう。

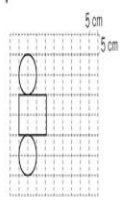
図1
10 cm



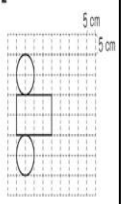
図2
5 cm



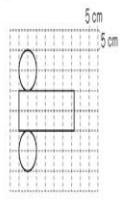
1
5 cm



2
5 cm



3
5 cm



4
5 cm

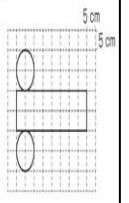


図1の円柱を、図2のように切り開くと、展開図ができます。

図1の円柱の展開図を、側面の形を長方形にして、工作用紙にかきます。

このとき、長方形の横の長さは、円柱の底面の円周の長さと同じになります。

正答 3

全国・県と比較して、正答率が高かった問題です。図形を構成する要素である面と面、辺と辺等の位置関係に着目しながら、立体図形を見取図や展開図で表したり、逆に、見取図や展開図から立体図形を構成したりすることができるようにすることが大切です。本設問では、円柱の展開図をかく場面において、底面となる円の直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかを問っています。ここでは、一目盛りの長さが円の半径の長さと同じ方眼において、円周の長さは直径の長さの約3.14倍であることを基に、側面に当たる長方形の横の長さを捉えることが必要です。

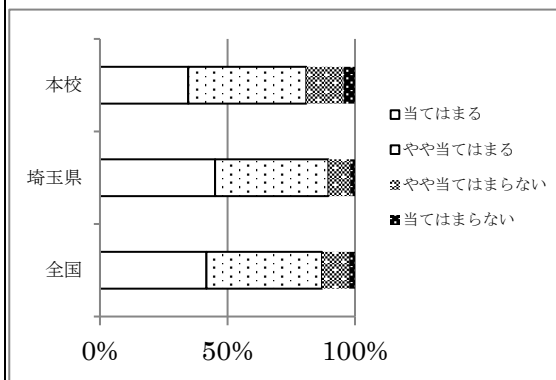
＜質問紙調査から

【(例 20)】

質問

分らないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。

回答



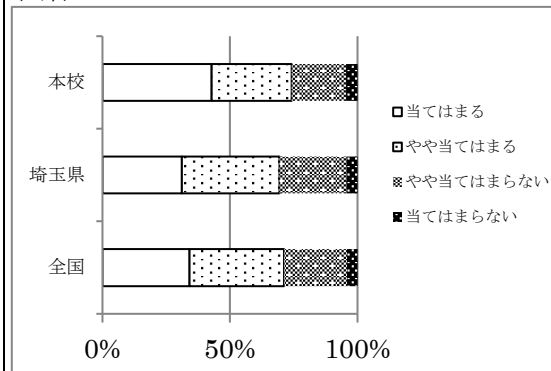
この回答結果は、肯定的回答が8割を上回る結果です。普段から、ペアやグループの伝え合い・話し合いの活動を授業で取り入れてきたことが、「はい」の回答の多さにつながったと考えられます。自分の考え、気持ちを友達に伝えることを得意と解答する背景には、児童同士の良好な人間関係を垣間見ることができます。活動を通じて、自他の考えの共通点や相違点に気付くことで、考えや視野の広がりにつながります。今後も引き続き実践をしていきます。

【(国2 算2)】

質問

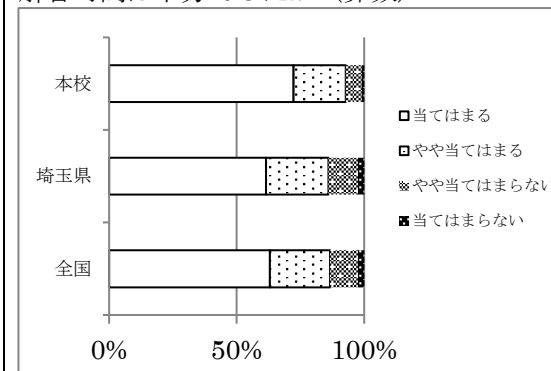
解答時間は十分でしたか（国語）

回答



質問

解答時間は十分でしたか（算数）



この回答結果は、全国を上回る結果です。考えることの習慣化、一定時間内に解答する経験の積み重ねなどが、この回答結果を向上させると考えられます。そのために、日々の生活の中で、日常の事象に対する、疑問の目を持ち、「どうしてだろう」と考えることが大切です。また、全教科・領域の授業で、主体的に課題解決に取り組みせたり、考えさせる場面を意図的に多く取り入れたりする授業を工夫していきます。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和6年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

小学校第4・5・6学年 原則として全児童

3 調査実施日

令和6年5月15日（水）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた児童の割合…前年度から学力が伸びた児童の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	13	61.9	63.1	14	64.5	65.1	15	60.4	62.8
情報の扱い方、我が国の言語文化	4	49.3	41.8	3	57.7	53.1	2	56.6	55.3
話すこと・聞くこと・書くこと	9	48.5	45.5	6	54.6	51.6	5	47.0	52.1
読むこと	4	41.5	39.9	8	50.0	48.0	9	44.1	49.4
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑↑	↑↑↑		↑↑	↑

算数	第4学年			第5学年			第6学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	13	65.7	65.5	14	55.2	50.9	13	49.6	56.1
図形	6	54.0	56.1	8	67.5	64.0	8	45.6	51.3
4年測定 5,6年変化と関係	6	63.1	63.2	6	54.9	48.6	7	60.0	58.8
データの活用	6	63.1	62.1	4	51.8	48.0	5	24.6	25.8
※学力の伸びた児童の割合					↑↑↑↑↑	↑↑		↑↑	↑↑

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は８０％以上（％）

内容	項目	第４学年	第５学年	第６学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	93.5	94.2	94.3
		94.1	90.2	90.4
	② 授業の開始時刻	87.1	91.5	93.4
		78.7	92.7	93.0
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	78.5	82.4	84.9
		59.6	80.5	74.6
	④ 整理整頓	73.8	76.8	76.0
		65.4	73.2	71.9
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んであいさつや返事をする			
	⑤ あいさつ	75.9	77.6	77.9
		69.1	73.2	76.3
	⑥ 返事	83.2	88.8	88.2
		89.0	82.9	86.0
	4 ていねいな言葉づかいを身に付ける			
	⑦ 正しい言葉づかい	85.7	86.6	88.8
		76.5	89.4	80.7
	⑧ やさしい言葉づかい	82.7	86.7	84.5
		76.5	82.9	77.2
○約束やきまりを守ることができる	5 学習のきまりを守る			
	⑨ 学習準備	80.4	85.7	86.2
		78.7	82.1	92.1
	⑩ 話を聞き発表する	77.7	79.2	76.0
		68.4	69.9	68.4
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	88.3	88.5	86.7
		85.3	84.6	84.2
	⑫ 掃除・美化活動	89.5	89.6	87.9
		80.9	89.4	86.8

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆1 反復学習の時間確保と取組

- (1) 授業時間内に定着問題とその反復の時間を確保しています。
- (2) 単元ごとのワークシートを活用し、習熟度の確認をします。
- (3) ドリル学習や、再テスト等で確実な定着を目指しています。

☆2 全教科で言語活動の充実をはかっています。

単元の流れを見通して、豊かに表現する活動を取り入れることを目標にします。

- (1) 意見や事実を考える。
- (2) 考えたことを書く。
- (3) 書いたことを話し合ったり、伝え合ったりする。(ペア・グループ・学級内で)

☆3 その学年で身につけなければならない基礎的・基本的な事項についてテスト形式で確認し、繰り返し取り組むことで学力の確かな定着を図ります。

☆4 授業力を向上させるため、互いの授業を見合う場をより多く設定し、授業について話し合う場を通して教師同士の学びを深めます。

■5 クロームブックなどの ICT 機器を活用することで、子供達の興味関心を引き出したり、学習の理解を深めたりすることができるよう教材研究を進め、授業を展開します。また、研修で活用の仕方を周知し、活用できるようにしていきます。

■6 身の回りの整理整頓やチャイム着席、学習準備などの規律が身につくよう校内の約束事を周知し、当たり前前の方が当たり前できるようにしていきます。

授業以外の取組

☆1 個々の評価を蓄積し、個の実態を把握した学習指導を行っています。

☆2 授業規律の確立のため、学年ごとの学習用具のきまりを各学級で指導しています。

☆3 図書室の整備・活用を進め、読書活動のさらなる推進と家庭への奨励を行っています。11月には、図書館教育部による読書月間の取組をしています。

☆4 学校行事等、児童が目標やめあてをもって、最後まで取り組めるよう、また友達と協力して絆が深められるよう、指導や支援を行っています。

☆5 家庭と協力して、家庭学習の習慣化を図り、学力の定着を目指します。

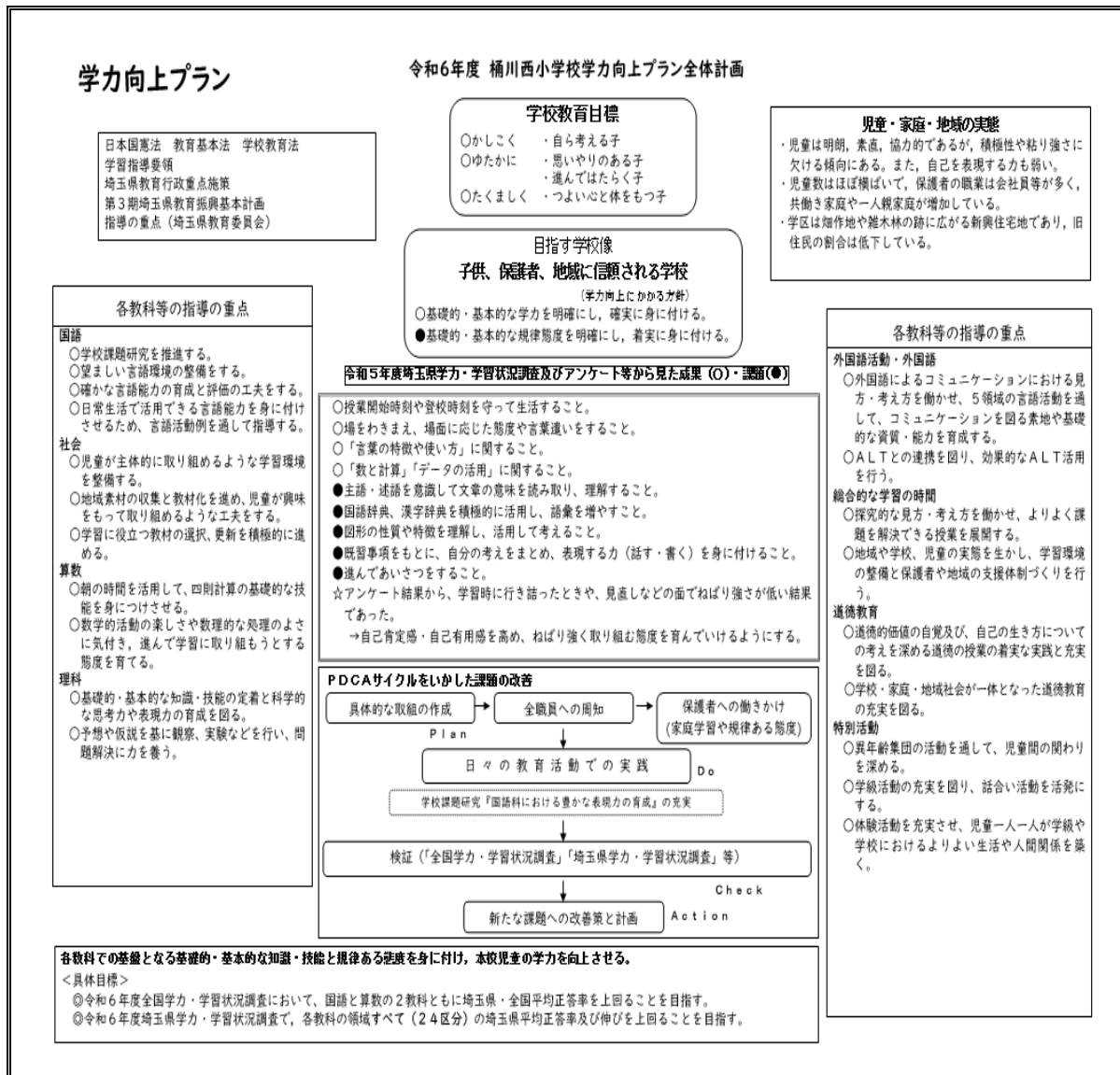
■6 県作成のコバトン問題集や復習シート、学力向上ワークシート等を授業や宿題等で活用することで学力の向上を図ります。

■7 校内の研修会を実施し、職員の指導力の向上を図ります。

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

本校の学力向上プラン



保護者・地域の皆様へ

全国学力・学習状況調査の結果から、今後も自己肯定感を高め、ねばり強く取り組む態度を育てていけるよう指導してまいります。また、埼玉県学力・学習状況調査の結果からは多くの場面において規律を大切にしている様子がうかがえます。今後も児童の学力の向上、心身の健全な育成を目指してまいりますとともに、友だちを大切に、安心して生活ができる学校づくりをしてまいります。今後も温かく見守っていただきますとともに、子どもたちの益々の成長のため、ご理解とご協力を頂きますようお願いいたします。